

萩城東園地区の復原整備計画

平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センター

山口県萩市に存在する萩城は、慶長9年（1604）毛利輝元によって築城が開始されて以来、幕末に至るまで、防長両国の拠点として政治・経済・文化の中心的役割を果たした城である。玄海灘に浮かぶ指月山上に詰丸を頂き、その南麓から松本川・橋本川が形成する三角州にかけて本丸・二の丸・三の丸と城郭の中心部を順次配し、本丸東北方には、満願寺・三摩地院・宮崎八幡宮等の社寺やお茶屋・御殿を中心とする東園（庭園）が造られている。

萩市では、萩城跡が萩の観光・文化の中心的役割を担っていることに鑑み、城跡全体の保存管理計画の策定を目指すと同時に、復原整備の手はじめとして1988・1989年の両年度にわたって上記の東園（庭園）地区の整備基本計画を立案することとなり、当研究所では作業の指導助言を行なった。初年度は絵図・文献・実地踏査による城跡および東園地区の復原作業を行なった。あわせて復原図を基にコンピュータ・グラフィクスによる復原透視図を作成した。次年度は、東園地区の地区区分計画から、各地区の特性に合わせた復原整備の基本計画案を提案した。

（高瀬要一・細見啓三・本中 真）

萩城東園地区復原整備計画図

萩城復原 C. G.